

Title	中国IPO市場におけるアンダープライシング問題
Sub Title	
Author	樹, 麗麗(Jiyu, Reirei) 姉川, 知史
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2005
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2005年度経営学 第2055号 不可
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002005-2055">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002005-2055</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 論文要旨

所属ゼミ	姉川 研究会	学籍番号	80430521	氏名	樹 麗麗
(論文題名)					
<b>中国 IPO 市場におけるアンダープライシング問題</b>					
(内容の要旨)					
<p>本論文は中国証券市場において、新規株式公開 (IPO) の際に公募価格が初値を下回るというアンダープライシング現象を検証するものである。1991年から2004年まで中国 A 株式取引所 (上海とシンセン) に新規上場した銘柄を研究対象に、その公募価格と上場した初日に初めてついた株価との乖離 (投資家の立場から“初期収益率”という) を分析し、その乖離に影響を与える要因を研究する。</p> <p>世界のほかの国でも IPO アンダープライシング現象が確認されているが、アンダープライシングの度合が中国よりはるかに小さい。多数の欧米先行研究により、なぜ公募価格を過小評価するかについて非対称情報仮説、危険回避的引受業者仮説など様々な原因と証明されていた。ところが、歴史わずから15年である中国証券市場ではおよそ70%の株式を国家が持つ、「股権分置」という特別な制度がある。したがって、中国 IPO アンダープライシング現象を説明するには今まで海外各国の先行研究で挙げられた理論以外、何か特別な要因があるのではないかと考えられる。</p> <p>本論文はまず中国 IPO 市場の発行制度などを調査し、その現状や特徴を把握する。そして、いくつか仮説を立て、回帰分析を行い、アンダープライシングに影響する要因を検証する。</p> <p>検証結果を踏まえて本論文の結論は、中国証券市場に IPO アンダープライシング問題について、新規株式の発行方式、公募価格、発行規模、引受主幹事の規模などから影響を与えており、取引市場や業種 (不動産業・放送メディア以外) とはあまり関係ないことが分かった。また「股権分置」は異常な高初期収益率の根本的な原因だと考えられる。</p> <p>中国証券市場をよくするには、関連制度・規制などを頻繁に変更するような即効薬で表面的な改善より、非流通株放出、コーポレートガバナンス、粉飾決算の途絶など根本的な問題から解決する必要がある。また個人投資家は株主としての意識を高めることも欠かせない。そのような努力が続くことによって中国証券市場の真の発展を期待している。</p>					